

一日研の報告

- 1 期日 2月22日
- 2 参加者 O、CH、YO、AR、KA、AS、AK
- 3 内容
 - 「追求」の理論(O)
 - 『海の命』解釈(KA)
 - 『たんぽぽ』音読映像(AK)
 - 『初雪のふる日』記録(AR)、映像(AK)
 - 『わらぐつの中の神様』解釈(YO)
 - 『春』戸田学級の映像(CH)

追求の理論では、この会で大切にしているものは何かを改めて考えました。真理の追求とは、子どもや教材の「いのち」に感動できる心を、事実に従って、事実を見つめながら養っていく過程なのだと思います。こうした理論を考えることで、普段の授業の意味づけと意識の再確認ができます。

「海の命」は、どこを考えていくのかを絞って丁寧に文を読んでいくことで、「村一番の漁師」と「本当の一人前の漁師」が同じなのかという他の場面とのつながりが見えてきました。もう一度整理して、授業者がじっくりくるところをやっていきましょう。

「たんぽぽ」の音読は、技法的に走りすぎていました。もっと音読する部分を精選して教師が手本を示すことで、音読の仕方を変えていけました。

「初雪」の記録では、子どもたちが言葉を手がかりにたくさん発言していました。どの言葉を証拠として使い解決するのか、や、つながりのある言葉を見つけておけるか、対立は「黒か白か」のようにどれだけ分かりやすく明確に立てられるかが、鍵になると思いました。

AKの映像は、日頃の授業の軽さが露呈しました。具体的な言葉を使って問題をはっきりさせながら授業を丁寧に進めていきたいと思います。

「わらぐつ」の解釈では、キーワードとなる「朝市の立つ日」とのつながりのある「」に注目しました。「朝市の立つ日」までにおみつさんとうちの人たちとのどんなやりとりがあったのか、「」名前におみつさんは何と言っていたのかななどを、言葉とつなげながらイメージを鮮明にしていくことで、おみつさんの行動の振り幅が見えてきました。

戸田学級の「春」の授業では、4月最初なのに出てくる反応や発言のすごさを感じました。詳しくはまた解釈をして再度勉強していきたいと思います。(AK)